

通信宝箱

平成21年
5月号

今月のHOTニュース

自動車盗難事故実態調査

社団法人日本損害保険協会が実施した「自動車盗難事故実態調査」(調査期間:2008年11月1日~11月30日)によれば、車上ねらいにおけるカーナビの被害は依然としてトップで、深刻化しているようです。今回は、本体盗難と車上ねらいについての結果を一部抜粋しました。

■自動車盗難発生場所

盗難発生場所	本体盗難				車上ねらい			
	2007年11月		2008年11月		2007年11月		2008年11月	
	支払件数	構成比	支払件数	構成比	支払件数	構成比	支払件数	構成比
自宅(屋内)	18	2.2%	23	3.6%	103	3.3%	76	2.9%
自宅(屋外)	213	25.8%	184	28.8%	1,000	31.9%	800	30.4%
契約駐車場(屋内)	16	1.9%	17	2.7%	42	1.3%	53	2.0%
契約駐車場(屋外)	373	45.2%	233	36.5%	987	31.5%	869	33.0%
コンビニ・スーパー駐車場	22	2.7%	14	2.2%	139	4.4%	86	3.3%
通勤先駐車場	39	4.7%	46	7.2%	138	4.4%	138	5.2%
空き地	8	1.0%	6	0.9%	16	0.5%	14	0.5%
路上	44	5.3%	43	6.7%	116	3.7%	93	3.5%
その他	92	11.2%	73	11.4%	597	19.0%	505	19.2%
合計	825	100%	639	100%	3,138	100%	2,634	100%

トラックタイプの商用車の被害が急上昇!

中東やアフリカ、東南アジアなどの発展途上国でのニーズを背景に、盗難車の多くは解体してエンジン部分のみ取り出されたりする等して不正輸出されているものと思われる。特にトラック型商用車の盗難が急上昇しており、トラック盗難は本体被害のみならず、積載貨物の被害も深刻であるため、特に運輸・運送事業者は盗難防止の取り組みが急務である。

盗難車両はハイエースがワースト1位

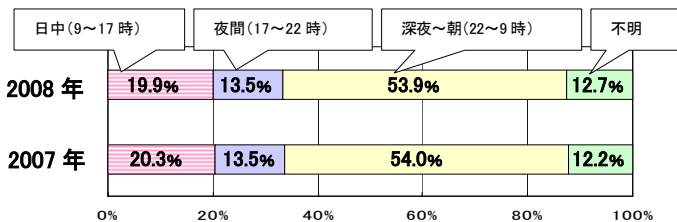
2007年度調査でワースト1位のハイエースが、引き続き2008年度もワースト1位となった。2007年より標準またはオプション装備でイモビライザが装着できるようになったが、市場に出回っているハイエースの大部分はイモビライザが装着されていないため、ユーザーは後付のセキュリティ装置を装着する等、自己防衛する必要がある。

■施錠の有無(車両本体盗難)

施錠の有無	2007年11月調査		2008年11月調査		2007年警察庁統計(参考)	
	支払件数	構成比	支払件数	構成比	認知件数	構成比
カギを抜きドアをロックしていた	753	93.7%	570	92.1%	23,095	72.6%
カギを抜いたが、ドアをロックしていなかった	6	0.7%	8	1.3%		
カギをつけたままでドアをロックしていなかった	45	5.6%	41	6.6%		
合計	804	100%	619	100%	31,790	100%
不明	21	—	20	—	—	—
総合計	825	—	639	—	31,790	—

(注)警察庁統計は、ドアのロックを問わない。

■盗難発生時間帯(車両本体盗難・車上ねらい発生件数合計)

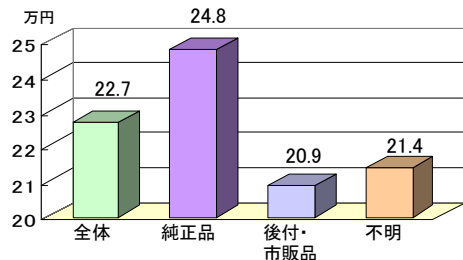


■車上ねらいの被害品(2008年11月調査)

被害品	件数	構成比
1 カーナビ	1,153	37.3%
2 外装部品(バンパー・ドアミラー等)	310	10.0%
3 バッグ類	245	7.9%
4 タイヤ・ホイール	175	5.7%
5 金銭・カード	173	5.6%
6 スポーツ用品(ゴルフバッグ等)	167	5.4%
7 CD・MD・DVD等(ソフト)	123	4.0%
8 オーディオ	122	3.9%
9 パソコン・情報端末	48	1.6%
10 衣料品類	41	1.3%
11 運転免許証	27	0.9%
12 携帯電話	22	0.7%
その他	483	15.7%

■カーナビ被害金額(2008年度調査)

車上ねらいにおけるカーナビ被害が深刻化している。カーナビ盗難の1件あたりの被害額は平均22.7万円と高額。



*** カーナビ盗難防止のポイント ***

- ・車外からカーナビが見えないようにカバーをかける。
- ・持ち運びができるタイプのカーナビは、駐車時は自宅に持ち帰る。
- ・カーナビを取り付ける際には盗難防止対策を施した特殊なネジを使用して取り外しを困難にする。

出典:社団法人 日本損害保険協会HP/ <http://www.sonpo.or.jp>
「2008年度 自動車盗難事故実態調査 結果報告」

~各種損害保険の詳細は裏面取扱代理店までお問い合わせください。~

交通安全のポイント

風薫る5月は、風を切って走る二輪車にとって絶好のシーズンであり、これから夏にかけて二輪車の通行量も増えていくと予想されます。その一方で、二輪車との事故は、重大な人身事故につながるおそれがあります。そこで今回は、二輪車との事故を防止するためのポイントを考えてみることにしましょう。

■二輪車との典型的な事故パターンと事故の要因

右折時に直進二輪車と衝突

特に対向右折車があるときや、対向車から道を譲られて右折するときには事故が発生しやすくなります。

【事故の要因】

- ・二輪車は車体が小さいため、四輪車のドライバーは二輪車の速度を実際よりも遅く感じたり、距離を遠くに感じて、二輪車が接近していても、自分のほうが先に行けると誤った判断をすることがあります。
- ・二輪車は対向車の死角に入りやすいため、見落としや発見が遅れがちになります。



左折時に左側方の二輪車と衝突

交差点の左折時だけでなく、道路外施設に入るために左折するときにも発生します。

【事故の要因】

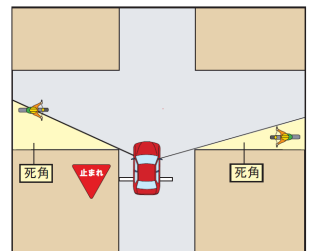
- ・左折のために左側に寄る際に、左側方や左後方の安全確認を怠ったり、サイドミラーだけの確認で済ますと、二輪車を見落とししてしまいます。
- ・サイドミラーには死角があり、左側の二輪車が映らないことがあります。

見通しの悪い交差点での出会い頭事故

二輪車は狭い道路でも通行できるため、住宅街などの脇道から急に出てくることもあります。

【事故の要因】

- ・一時停止や徐行による安全確認が不十分だと二輪車を見落とししてしまいます。特に右方からの二輪車が道路端を走行してくると、死角に入りやすくなりますから、安全確認ができる位置でしっかり止まって、はっきり確認しないと見落とす危険があります。
- ・道路にミラーを設置してある場所でも、ミラーだけに頼ると、二輪車を見落とす危険性が高まります。



進路変更してきた二輪車との事故

二輪車(特に原付バイク)は、道路の左端を走行します。道路の左端は駐車車両や水たまりなどの障害物も多いため、それを選避するために道路の中央に進路変更してくることがあります。

【事故の要因】

- ・左前方を走行する二輪車の進路の先の状況に注意を払わず、漫然と運転していると、二輪車の動きが予測できず、進路変更に気づくのが遅れてしまいます。

■事故を防止するための安全運転のポイント

◎死角に隠れた二輪車を見落とさない

右折時に対向右折車があるときや、対向車に道を譲られて右折するときには、対向車の前方に出る前に、必ず対向車の側方から二輪車が接近していないかどうかを確認し、接近してくる二輪車を見落とさないようにしましょう。

◎左折時は自分の目で二輪車を確認する

交差点を左折するときや道路外施設に入るために左折するときには、左側方や左後方に二輪車がないかどうかを、サイドミラーだけでなく、直接自分の目で確認しましょう。

◎一時停止ではっきり確認する

一時停止の標識や標示のある交差点では、しっかり一時停止して、死角に二輪車がないかどうかをはっきり確認しましょう。また、一時停止の標識や標示のない場所でも、徐行をして安全を確認しましょう。

◎二輪車の動きを予測する

二輪車の前方に駐車車両等の障害物があるときは、二輪車の進路変更を予測して、スピードを落とし車間距離をとって、二輪車が進路変更するのを待つようにしましょう。

二輪車に乗る方へのアドバイス

- ・他車から見落とされやすいことを理解して、特に交差点などでは他車の動向に十分注意しましょう。
- ・一時停止の標識や標示のある交差点では、必ず一時停止して安全確認をしましょう。
- ・進路変更をするときは早めに合図を出すとともに、必ず後続車の有無を確認しましょう。